

## 【投薬量は何 ml ? part2】

### はじめに

前回、消炎剤の体重ごとの投与量を紹介しました。今回は抗生剤についての体重ごとの投与量を紹介します。体重ごとの投与量だけでなく、投与経路及び休薬期間も併せて紹介します。

### 投与量・投与経路・休薬期間

まずは、休薬期間と投与経路についてです。次に投与量を紹介します。

薬品名	休薬期間		投与経路
	肉(日)	乳(時間)	
ペニシリン	14	96	筋肉
注射用アンピシリンナトリウム NZ	3	72	静脈
硫酸カナマイシン注 250	30	36	筋肉
セファゾリン注(3g)	3	36	静脈、筋肉
エクセネル注	7	24	筋肉
バイトリル 10%	8	60	静脈
バイトリル 10%	14	60	皮下
バイトリルワンショット(※1)	14	—	頸部皮下
マルボシル 10%	4	48	静脈、筋肉
ドラクシン(※2)	53	—	単回皮下
動物用タイラン 200 注射液	28	96	筋肉
ミコチル 300 注射液(※3)	76	—	単回皮下
OTC10%	14	72	静脈、筋肉、皮下
フロロコール 200 注射液(※1)	30	—	30
レスフロール(※1)	45	—	皮下
トリオプリン(※4)	10		筋肉

※1 搾乳牛は除く

※2 生後 13 か月を超える雌の乳牛（食用に供するための搾乳がされなくなったものを除く）を除く

※3 生後 15 か月を超えるものを除く

※4 豚用の薬

診療の際は、症状等により投与量を増減させることがあります。前回及び今回紹介したものは添付所に記載されている用法、用量です。

体重当たりの投与量(mL)

薬品名	30kg	40kg	50kg	100kg	200kg	300kg	400kg	500kg	600kg	700kg	800kg
ペニシリン	0.99~1.5	1.32~2	1.65~2.5	3.3~5	6.6~10	9.9~15	13.2~20	16.5~25	19.8~30	23.1~35	26.4~40
注射用アンピシリンナトリウムN2	0.6~1.2	0.8~1.6	1~2	2~4	4~8	6~12	8~16	10~20	12~24	14~28	16~32
硫酸カナマイシン注250	0.6~1.2	0.8~1.6	1~2	2~4	4~8	6~12	8~16	10~20	12~24	14~28	16~32
セフトゾリン注(3g)	1.5	2	2.5	5	10	15	20	25	30	35	40
エクセネル注	0.6~1.2	0.8~1.6	1~2	2~4	4~8	6~12	8~16	10~20	12~24	14~28	16~32
バイトリル10%	0.75~1.5	1~2	1.25~2.5	2.5~5	5~10	7.5~15	10~20	12.5~25	15~30	17.5~35	20~40
バイトリルコンシヨット	2.25	3	3.75	7.5	15	22.5	30	37.5	45	52.5	60
マルボシル10%	0.6	0.8	1	2	4	6	8	10	12	14	16
ドラクシン	0.75	1	1.25	2.5	5	7.5	10	12.5	15	17.5	20
動物用タイラン200注射液	0.6~1.5	0.8~2	1~2.5	2~5	4~10	6~15	8~20	10~25	12~30	14~35	16~40
ミコチル300注射液	0.9	1.2	1.5	3	6	9	12	15	18	21	24
OTC10%	0.6~3	0.8~4	1~5	2~10	4~20	6~30	8~40	10~50	12~60	14~70	12~80
フロロコール200注射液	1.5	2	2.5	5	10	15	20	25	30	35	40
レスロール	2~4	2.68~5.32	3.4~6.7	6.7~13.3	13.4~26.6	20.1~39.9	26.8~53.2	33.5~66.5	40.2~79.8	46.9~93.1	53.6~106.4
トリオプリン	3~6	4~8	5~10	10~20	20~40	30~60	40~80	50~100	60~120	70~140	80~160